

NO.	項目	令和3年度対計画比を踏まえた分析・考察 (要介護認定者数・要介護認定率のみ令和4年度)	備考	
1	要介護認定者数(R4年度)	※計画値に対して、実績値が上回っている理由若しくは下回っている理由を分析し、その要因等を推察してください。 103.1%	総括表	
2	要介護認定率(R4年度)	102.4%:実績値が計画値を若干上回っている。 要介護申請者数が予想より多い傾向にあるため、介護予防事業等に重点的に取り組む。		
3	利用者数	施設サービス	99.5%:ほぼ計画値どおりであり、新型コロナウイルスの影響を受けていないことが伺える。	総括表詳細(1)
4		居住系サービス	79.7%:実績値は下回っていることから、新型コロナウイルスによるサービス利用の自粛が伺える。	
5		在宅サービス	全体で94.4% ・訪問入浴介護利用者数(120.6%)は、計画値を大きく上回っている。前年度は1人当たりの利用回数が多かったが、今年度は均一に利用者があることが伺える。 ・訪問リハ(134.3%)は、計画値を大きく上回っており、新型コロナウイルス感染症を警戒して、集団による通所リハではなく、個人対応の訪問系に移行したことが伺える。 ・訪問介護(82.5%)、訪問介護(98.5%)、通所介護(89.5%)、短期入所(89.9%)等計画値より数値が下回っており、全体的に新型コロナウイルス感染症による利用控えが伺える。 ・小規模多機能居宅介護(60.1%)は、令和3年度に施設整備を予定していたが整備されなかったため、計画値を大きく下回った。	
6		施設サービス	99.5%:利用者数と比例した数値となっており、ほぼ計画値どおりであり、新型コロナウイルスの影響を受けていないことが伺える。	
7		居住系サービス	79.4%:利用者数と比例した数値となっており、計画値より数値は下がっている。新型コロナウイルスによるサービス利用の自粛が伺える。	
8	在宅サービス	全体で94.1%:利用者数と比例した数値となっており、介護サービス種類により計画値を上回る又は下回っている。新型コロナウイルスによる影響が伺える。	総括表詳細(2)	
9	1人1月あたり利用日数・回数	・療養型短期入所は、1人当たりの利用頻度が高い(入所日数が長い)ことから、施設入所によらず、短期入所のリハビリによる利用状況が伺える。	総括表詳細(3)	
10	受給者1人あたり給付費	施設サービス	100.4%:計画地と実績値との乖離が10%以内であり、計画どおりとなっている。	総括表詳細(4)
11		居住系サービス	99.2%:計画地と実績値との乖離が10%以内であり、計画どおりとなっている。	
12		在宅サービス	全体で137.7%:計画地と実績値との乖離が10%以上である。新型コロナウイルスの影響で利用するサービスの種類に偏りがあった。 全体として1人当たりの給付費は増加していることから、利用者が均一にサービスを利用しているのではなく、一部の方が同じサービスを何度も利用していることが伺える。	
13	給付費	施設サービス	100.3%:計画地と実績値との乖離が10%以内であり、計画どおりとなっている。	総括表詳細(5)
14		居住系サービス	79.1%:例年であれば増加傾向にあるが、実績値は下回っていることから、新型コロナウイルスによるサービス利用の自粛が伺える。	
15		在宅サービス	全体で93.5% ・特に訪問看護(118.3%)、訪問リハ(129.9%)は計画値を大きく上回っている。また、地域密着型通所介護(81.9%)は下回っている。今回は新型コロナウイルスによるサービス利用に影響が及ぼされたことから、次回給付費の計画値設定を慎重にすすめる。 ・療養型短期入所(125~130%)に関して需要が多いことから、次回の計画では生活介護を減らし、療養型の利用を多く見込むこととする。 ・小規模多機能型居宅介護(65.1%)は、令和3年度に施設整備の予定であったが整備されず実績値が計画値を大きく下回ったことから、次回計画の施設整備を慎重にすすめる。	